青森市男女共同参画情報紙

Un jour アンジュール

―性別・世代・時代を超えて―

アンジュールはフランス語で「ある日」という意味。一人ひとりの「ある日」を紡いでいきたいという願いを込めた情報紙です。

男女共同参画の視点からの防災とは

想像していた以上においしい！
と好評だった非常食の試食会

各テーマについて、意見を出し合い理解し合えたワークショップ

具体的なお話が多く、とても分かりやすかった浅野先生の講演

まさしく「備えあれば憂いなし」の避難グッズの数々

「カンパン」だけではなく、今や種類が数多くそろっている非常食品

「男女共同参画都市」青森宣言

私は私を大切に思うのと同じ重さで
あなたを大切に思う

性別を超え
世代を超え
時代を超え
人と協調し　人を信頼できる
誇り高い人間でありたい

すべての人の自立と平等をめざして
青森はここに「男女共同参画都市」を宣言します

平成８年 10 月 22 日　青森市

特集　誰もが安心できる避難所づくり ～みんなで考えよう　防災と男女共同参画～

平成 27 年 10 月 24 日(土)、青森市男女共同参画プラザ「カダール」において、約 80 名が参加して、防災イベントが開催されました。

国では、東日本大震災を踏まえ、「男女共同参画の視点からの防災・復興の取組指針」を作成しています。

本市においても、災害時に生活の拠点となる避難所に焦点をあて、講演会やワークショップを行い、参加者は災害時に備えて、男女共同参画の視点に立った避難所づくりの必要性を認識しました。

（特集記事２、３面）

2015.12　No.47

ニュースの目　女性活躍推進法が成立しました!

国内の 15 歳から 64 歳までの女性の就業率は、平成 26 年には 63.6%（昭和 50 年 48.8%）と増加しています。しかし、依然として根強い長時間労働を前提とした労働慣行等から、仕事と生活の両立ができずに就業継続やキャリアアップを諦める女性も多く、約 6 割の女性が第 1 子出産を機に離職しています。育児・介護等を理由に働いていないものの、就業を希望している女性は約 300 万人に上ります。また、役員や管理職等の指導的地位にある女性の割合は諸外国と比べて低い水準にとどまるなど、働く場面における女性の活躍は不十分と言わざるを得ないのが現状です。

こういった背景で、国は、働くことを希望する女性が、職業生活においてその個性と能力を十分に発揮して活躍できるよう、事業主に対し、行動計画の策定、公表の義務付け等を規定した「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」（女性活躍推進法）を本年 9 月に制定しました。

女性が活躍できる場を充実させることにより、男女が共に仕事と生活を両立でき、全ての人にとって暮らしやすい、さらには持続可能な社会の実現につながるものと考えられます。

輝きびと　ロールモデル

贈り主の思いを、最高の形で届けたいと思っています」

らんぶらーふらわーず　花人　川崎　麻里子さん

お花を贈る人の気持ちを大切にしたいので、完全予約制でやらせていただいています。」花選びに自分なりのこだわりを持っている川崎さんは、いつも場面にふさわしい花をセレクトしてくれます。

デザインに関する仕事がしたいとの思いから選んだのが、フラワーアレンジメントの仕事でした。子育てをしながら専門学校に通い、勉強を重ね資格を取得、9 年前に　らんぶらーふらわーず」というお花屋さんを開業しました。

そんな川崎さんには、忘れられない出来事があるそうです。友人から東日本大震災の被災者へ贈る花を頼まれた際、その時のさまざまな状況、贈る人、贈られる人の気持ちを配送ギリギリまで考えて、アレンジメントを作りました。すると贈り主の元に　被災地は、本当に色がない世界です。そこに届いたきれいな色の花はとても嬉しかった。ありがとう。」というお礼の手紙が届いたと聞き、花に託した自分の思いが、きちんと伝わったことに感動したそうです。川崎さんのこだわりを表すエピソードだと感じました。

お花屋さんの業界は見た目の華やかさとは裏腹で、水仕事や仕入れ、配達などの力仕事、特に冬場の低温での作業は辛い仕事です。また、意外と男性のシェアが高い世界であり、男性の方が繊細なモノを作れるのかも」と笑いながらも私は自分で納得したものを、お客さまにお渡ししたい」ときっぱり言い切る川崎さんに、男性、女性の垣根を超えたプロ意識を感じました。

青森市ＤＶ相談支援センター開設
～ひとりで悩んでいるあなたへ　相談してみませんか～

青森市において、支援を必要とするＤＶ被害相談者の立場に立ったワンストップ支援を行うため、平成 27 年 4 月 20 日「青森市配偶者暴力相談支援センター」を開設しました。ＤＶ相談専用ダイヤルによる電話相談及び電話予約による面接相談を行っています。

あなたの大切な人が困っている時には、こちらの専用ダイヤルをご紹介ください。

【青森市ＤＶ相談支援センター】
受付時間　平日８時 30 分から 17 時まで（土日祝日・年末年始を除く）
ＤＶ相談専用ダイヤル　０１７―７３４－５３１８

「ＤＶ予防啓発展示」
市役所市民サロン

＜発行＞
青森市市民生活部生活安心課
男女共同参画室
〒030-8555　青森市中央 1-22-5
【電話】　017（734）2296
【ＦＡＸ】　017（734）5256
＜編集スタッフ＞
藤野弘子・長内美子（NPO 法人あおもり男女共同参画をすすめる会）・**堀内美穂**（NPO 法人ウィメンズネット青森）・**西川千秋**(中学生版男女共同参画啓発小冊子企画編集員）
※転載ご希望の場合はご連絡ください。

●カダール託児室●

青森市男女共同参画プラザ「カダール」での催事や青森市民図書館の利用のほか、中心市街地での買い物や通院などのときにも安心して利用できる施設です。

【託児時間】　9:00～21:30（毎月第 2 水曜日を除く）
【対象】　1 歳 6 か月～就学前
【料金】　1 時間 600 円（最長 3 時間）
【お問合せ】　☎017（776）8800
※前日までに要予約

・・・青森市の男女共同参画拠点施設・・・

＊青森市男女共同参画プラザ「カダール」
（青森市新町 1-3-7 アウガ 5・6Ｆ）
【開館時間】　9：00～22：00
【休館日】　毎月第 2 水曜日
【電話】　017（776）8800
【ＦＡＸ】　017（776）8828

＊青森市働く女性の家「アコール」
（青森市勝田 1-1-2）
【開館時間】　9：00～22：00
【休館日】　毎月第 2 日曜日
【電話/ＦＡＸ】　017（723）1700

特集 誰もが安心できる避難所づくり
～みんなで考えよう　防災と男女共同参画～

◆◆防災とは生活そのもの◆◆

講師　浅野　幸子氏

プロフィール

減災と男女共同参画研修推進センター　共同代表
早稲田大学「地域社会と危機管理研究所」招聘研究員、
大学非常勤講師
阪神・淡路大震災で、国際協力NGOのスタッフとして在宅避難者支援や復興まちづくり協議会の支援活動を行う。
主な専門分野は地域防災、非営利組織論。

講　演　内　容

東日本大震災時、あなたはどこにいましたか。
平日午後２時、あなたとあなたの家族はどこにいますか。誰といますか。
「性別・立場別に異なる災害時の困難」について、イラストを交え、特に昼間地域にいるのは、高齢者や女性、子どもたちとなるので、女性や子どもが主役になって、地域防災活動に関わっていくことが重要であること。また、平常時にできないことは、非常時にはなおさらできないことから、平常時からどのような視点で防災に取り組むべきかなどについて、被災地での実例や防災への女性の参画を重視した国の計画などをあげ、わかりやすく解説した。

講師からのメッセージ

「防災は力仕事=男の世界」というイメージが強いと思いますが、防災とは「生活そのもの」です。持続可能な地域づくり(女性も若者も活躍できる地域、子育て・介護問題への積極的な取り組み)とも裏表の関係です。地域で活躍する女性たち、男性たちがともに集い、「避難所」というテーマを通して生活目線での防災について話し合ったことは、地域防災力を高めると同時に地域の活性化にもつながるはずです。

ワークショップ

「男女共同参画の視点に配慮した避難所づくりとは何か」について、５つのテーマで話し合いました。各テーマごとにいくつか事例を取り上げてみました。

生活空間について ～プライバシー、衛生、安全の確保～

課題
・プライバシーの確保や用途ごとの空間が必要である。

対策
・家族ごとの仕切りや、更衣室、男女別トイレ、下着等を干す専用スペースを確保する。（それにより、犯罪の抑制やストレス緩和にも繋がる。）

安全・安心について ～治安の維持、暴力対策～

課題
・避難所でのＤＶ・性暴力・ハラスメントは、日常にもまして声を上げにくい。

対策
・巡回や、防犯ブザーの配布を行う。
・女性専用スペースを設置する。
・人前では話しにくいことも安心して言える相談スペースを設置する。

心身の健康・介護について

課題
・妊産婦は、ゆっくり体を伸ばして休めない。
・慢性疾患が悪化する。
・高齢者は、床で寝起きすることや座ることが不便である。
・介護や看護を必要とする家族は、周囲に気を使う。

対策
・心身の安静を保てる場所や、体を休める場所を確保する。
・ベッドや椅子、杖を設置する。（2014年夏の広島市土砂災害では、地元の看護師が中心となり段ボールによる簡易ベッドを設置した。）
・落ち着いた環境で介護できる場所の確保をする。

食・子育てについて

『食』
課題
・食物アレルギーを持っている当事者や子どもの親からの情報収集が必要である。
・アレルギーによる重篤な症状をもった人への対応が必要である。

対策
・調理の際、炊き分けをする。
・避難所となる学校の保健室にエピペン(※)等が常時置かれているか、避難訓練時などに確認しておく。

『子育て』
課題
・子どもを預ける先が無く、生活再建に支障をきたす。
・授乳、おむつ替え、泣き声など周囲に気を遣う。

対策
・避難所の中で被災者同士で、子どもの預け合い体制を作る。
・災害ボランティアセンター･子育てNPOが子どもの一時預かり支援を行う。
・授乳やおむつ替え、乳幼児が遊んだり、泣いたり、笑ったりできる場所の確保をする。

※エピペン…食物アレルギーなどによるアナフィラキシーを発症した人に使用する緊急補助治療剤

物資の不足と配布方法について

課題
・避難所では、高齢者や女性は我慢しがちでニーズを引き出しにくい。
・男性から受け取りにくいものがある。

対策
・別室での聞き取りを行ったり、リクエスト票を活用する。（東日本大震災では、数人の女性リーダーをつくることで聞き取りが円滑に進んだケースもある。）
・物資の置き場所を掲示する。

女性町会長から見た地域の防災について
橋本南第二町会長　木村　常子さん

青森市内の女性の町会長は私を含めて５人です。町会長として、女性の視点も生かしながら、日頃から地域と密接に関わっています。女性は仕事や家庭、そして子育て等、色々なことを経験していく中で、子どもや高齢者などのサポートが必要な人への声掛けや、困っていること、必要としていることをくみ取る力が養われており、そしてそれを発信する力があると思います。災害時の避難所開設においても、多くの女性がリーダーや運営スタッフとして参画し、女性の視点を取り入れた運営をしていくことが大切だと思います。そのためには、日頃から多くの女性に町会などの地域活動に参加してほしいと思います。

避難所での健康維持管理

長く続く避難所生活は、ストレスや疲労により心身へ負担がかかります。長時間同じ姿勢をとり続けて発症するエコノミークラス症候群の予防や、リラックスして健康維持管理を心がけることが大切です。
そこで、「ＮＰＯ法人あおもり男女共同参画をすすめる会」では３Ｂ体操を応用して、誰でも無理なく体を動かせ、リンパの流れを改善する体操を考案しました。穏やかな曲に合わせて、ゆっくり腕を上げ肘から脇までさすったり、背筋を伸ばすなど、場所を選ばず誰にでもできる体操です。
是非普段の生活の中でも取り入れてみてはいかがでしょうか。

防災イベント後の参加者の感想

・防災でも男女共同参画の視点がとても重要だと認識した。
・避難所づくりの際、運営委員に男性、女性、少年、少女も入れるという事に感銘を受けた。
・被災者がみんなで協力できる体制が大切。日頃のネットワークの大切さがわかった。
・避難所暮らしでは、我慢は美徳ではない。

以上のような感想が出され、日頃からの地域でのコミュニケーションがとても大事であると実感しました。

誰もが安心できる避難所のために･･･

- 災害時には、平常時における社会の課題がより一層顕著になって現れるため、平常時からの男女共同参画社会の実現が、防災・復興を円滑に進めていくための基盤となる。
- 災害対応において女性が果たす役割は大きいことを認識し、女性の意思決定の場への参画や、リーダーとしての活躍を推進することが重要である。
- 性別はもちろん、年齢や障害の有無等、様々な社会的立場によって影響が異なることから、社会要因による災害時の困難を最小限にする取組が重要である。
- 男女の人権を尊重して、避難生活の安全・安心を確保するため、女性や子どもに対する暴力等の予防のための取組や、プライバシーを確保できる仕切りの工夫が重要である。